

「最後まで攻める」

いよいよ12月となりました。センター試験の得点力をかためなければいけないと考えて、マーク式の問題集に取り組む人も増えてきます。しかし、意外なことに、演習をすればするほどマーク模試の得点が下がってしまう人も多くいます。訓練すればするほど得点力が向上していくはずなのに、やればやるほど得点が下がっていくのです。なぜ、このような現象が起こるのでしょうか。どうやって乗り越えていけばよいのでしょうか。

入試が近付いてくると、勉強が順調に進んでいる人でさえ失敗を恐れる恐怖心もだんだんと強くなります。そうすると、これまで軽い気持ちで選択肢を選んでマークしていたのに、本番を強く意識するようになると、正答の選択にそれまでにないほど慎重になり自分を疑いはじめます。その結果、正答の選択に手ごたえのある根拠がみつからないと迷うようになります。失点を恐れて答えに迷った挙句に正答をはずしてしまうことが多くなります。本来ならば、答えに根拠があり、それを確かめるのは当然のことですが、そのプロセスをふっとばして勉強してきた人が多いのです。入試直前期になってきちんとしようとしてもそうそう簡単にはいきません。得点の伸び悩みや低下という現象は、多かれ少なかれ誰もが経験することです。

では、どう対処すればよいのでしょうか。陥りやすい二つの間違っただけの対処法は、「これまでの自分と決別するために、自分の部屋に引きこもって勉強する」、あるいは、「勉強の量が足りなかったのだから、問題集をガンガンやろう」と分量を勉強の目標としてしまうことです。どちらも誤った対処法です。設問の趣旨を理解して、どうすれば解決できるのかを考えるプロセスこそが勉強のしどころなのです。センター試験であれ二次試験であれ、問題を考えるプロセスで、必要不可欠な論理や知識を問うかたちで設問が作られているのですから、そのプロセスをすっ飛ばして丸暗記する「勉強」は効果のない薬を飲んでいる患者のようなものです。分からないことを増やすような勉強はいけません。特に、入試直前期にそういう勉強に走ると、問題がますます見えなくなり解けなくなります。

したがって、最良の対処法は、不明な点やあやふやな点を一つでも多く復習して自分のものにするということです。自分にできること、一歩でも前進することを考えればよいのです。具体的には、化学であれ

ば、有機・無機など決定的な弱点をノートに書き出してみます。覚えればなんとかなるものもあることでしょう。その中で配点の高いものから強化していくことを考えましょう。50点よりも60点、60点よりも70点のほうが圧倒的に有利になります。センター試験まで正味1カ月。弱点リストを一つでも多く攻略することに集中しましょう。できることはまだまだたくさんあります。

生徒面談と出願大学シミュレーションの見直し

11月28日(月)～12月8日(木)の期間に、担任面談を行います。9月に作成した「出願シミュレーション」を見直し、冬期講習の受講講座を決定します。冬期講習申し込み期間は12月3日(土)～8日(木)です。

<国立大学>

- ・二通りのセンター予想得点を記入して、前期・後期・中期の受験パターンを作成する。
- ・昨年度合格者のセンター平均点、10月記述模試、合格者平均偏差値(以上、「可否追跡資料」より)、および受験科目、配点を正確に記入する。

<私立大学>

- ・12月中に出願または出願準備を完了する。
- ・挑戦、本命、安全圏のバランスをよく考える。
- ・一般入試、センター利用入試について、さらに、その受験型や方式名と、受験科目、配点、試験日、合格発表日を正確に記入する。

12月三者面談で出願校を最終確認

12月10日(土)・11日(日)の三者面談では出願校を確認いたします。それに先立って、ご家庭でも話し合ってください。(予約票配布済)

重要

大学入試センターは、12月14日(水)までに志願者本人に「受験票」を送付します。保護者各位は必ずご確認下さい。

12月・1月重要スケジュール

- 12月10日(土)・11日(日) 三者面談 (出願校の確認)
- 12月12日(月) 2学期授業終了
- 12月13日(火)・14日(水) 自習室利用可
- 12月15日(木)～29日(木) 冬期直前講習
- 12月30日(金)～1月2日(月) 開館・自習室利用可
- 1月3日(火)～11日(水) センター直前対策授業
- 1月12日(木)入試壮行会 (連絡・受験準備点検・激励会)**
- 1月14日(土)・15日(日) センター試験**